

# 令和6年度 伊那市立東春近小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 思いやりのある 子ども  「失敗しても だいじょうぶ やってみよう」  ○ かかわり合って学習する  ○ 心を開く  ○ 心身を整える	令和6年度テーマ 一人ひとりの子どもたちが安心して学ぶことのできる授業づくり・学級づくり ～「伝え合う」ことを大切に～
	今年度の重点目標
	① 伝え合って深めよう ～「聴く」を大切に～(知) ・間違いや失敗をおそれない、異なる考え(こと)を認め合う ・必要感を大切に話し合い ・相手意識を持った「聴く」「話す」 ・地域の「人」「もの」「こと」とつながるさと学習
	② 自分からあいさつを広げよう(徳) ・気持ちよい朝のあいさつで1日がスタート ・感謝の気持ちを伝えるあいさつ(ありがとう) ・場に応じたあいさつ・地域に響くあいさつ(日々の生活で)
	③ よく遊び、よく働こう(体) ・学級の責任ある係活動・児童会当番・なかよし班活動の充実 ・心を配り集中して行う清掃・感謝の気持ちで行う給食の配膳・片付け ・体育館・校庭使用の活性化・学年を超えた活動の推進、環境作り

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○児童アンケートでは、多くの項目で子どもたちが肯定的に捉えていることがわかる。特に「授業中、友だちの話や考え、先生の話聞いていますか」「授業中、先生や友だちは、あなたの意見を聞いてくれますか」の項目に伸びが見られたことから、児童が学級内の居心地の良さを感じたり安心して学べていたりしたことが分かる。職員が学級・学年を超えて子どもたちに声をかけ、その様子を職員間で伝え合うことを心がけてきたことが、これらの姿につながったと考える。 ○保護者アンケートでは、「お子さんは授業の内容を理解していますか」という項目の肯定的な回答が下がった。個別最適な学びの実現に向けてさらなる授業改善が必要である。		
① 「話を聞く」点についてはできていると認識しているが、自分の考えを友だちや教師に伝えることに苦手意識を持つ子が比較的多い。 ・授業の中に、ペア学習やグループ学習を取り入れ、共同追究を大切にできた。友だちの考えを聞くことで、自分の考えが広がったり深まったりする学習が展開できてきた。	B b	○学級活動や総合的な学習の時間など、子ども達が伝え合う必要を感じるような場面を設定する。 ○日常生活の中で、「伝え合う」活動を意図的に仕組む。 ○ICTを活用し、書くことの手をつけていく。
② 昨年度同様、児童のアンケートでは「あいさつをしている」という肯定的な評価が高く、保護者や職員はあいさつについては不十分であると捉えている傾向がある。 ・自分からあいさつをする児童は少なく、あいさつをすると返してくれる児童は多いことから、「あいさつはされたら返すもの」という感覚の児童が多いと考えられる。	B b	○自分から進んであいさつをする気持ちがいいこと、相手にあいさつを返してもらうと気持ちがいいことなどを、根気よく伝えて、実践していく。 ○児童会活動を通して、玄関前でのあいさつ運動と共に、なかよし班の活動を使って、チームとして楽しくあいさつに取り組めるような工夫をしていく。
③ 朝や休み時間の校庭・体育館では学年を越えて元気に遊ぶ子どもたちの姿がある。また、清掃は全校でめあてを持たせる取組や児童会を中心にした無言清掃の取組の継続を通し、精一杯に取り組む児童の姿が見られている。学級での係活動、児童会当番活動などは、責任を持って活動できる児童が増えてきている。	A a	○児童の健康のため、朝ごはんの勧め、睡眠時間の確保、ネットやゲーム時間の区切り等の健康教育を行う。家庭にも情報発信し、協力をいただく。 ○安全な学校生活のため、令和7年度は廊下歩行の仕方について、全校で課題意識をもって取り組んでいく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○学校教育目標具現のための教育課程の展開	○体験活動を大事にし、個々の児童につける力を明確にした教育課程を展開しようとしたか。
		○児童の考えを大切にされた教育課程と読書指導	○児童会や行事等学校の教育課程を、児童の考えを大事にして展開しようとしたか。 ○読書指導に力を入れ、朝読書の時間を有効に活用したか。
	学習指導	○わかる授業の展開	○基礎・基本を明確にし、教材の精選をして、子どもたちにわかりやすい授業を展開することができたか。
		○「伝え合い」を大切にされた学習指導	○「表現力」「思考力」を重視した「伝え合い」を大切にされた授業展開ができたか。
	生徒指導	○一人一人を大事にする学級活動	○一人一人が学級に位置づけられ、生き生きした活動が展開できるようにしたか。
		○情報の共有と組織対応	○いじめや不登校の問題が起きたとき、組織的に対応できる学校体制が整っているか。
学校運営	安全	○安全の確保	○集団登下校・街頭指導及び安全の日の指導は、児童の安全意識を高め、日常生活に生かされているか。 ○施設・設備について日常的に点検や管理が行われているか。
		○食育の推進	○児童が農作業体験と生活を結びつけ、循環型の社会について、体験を通し実感しながら学ぶことができたか
	地域との連携	○家庭への発信と相談	○学校学年だより学校の様子を家庭に十分伝えているか。 ○保護者への連絡や相談等により、協力を得たり相互の理解を深め合ったりして、児童の教育に活かすことができたか。
		○地域との連携	○地域の人材、地域資源を生かした学校づくりがされているか
	研修	○校内研究の充実	○公開授業や授業研究会を通して、授業力向上を図ることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○老松場や地域の素材を活かした学習活動を展開する学級があった。学校教育目標が漠然として子ども達に意識化しにくい。三観点による通知表では子どもの学びが家庭に伝わりやすく、児童も目標を持ちにくい。	B b	○児童も職員もみんなが目指す具体的な姿になるよう、ランドデザインを簡潔化し、通知表の内容を見直し、達成可能な目標にする。児童・全職員で意思統一して達成に向けて取り組んでいく。
○はばたきの時間、子ども達の課題意識をもとに各学級が特色ある総合学習を展開することができた。低学年を中心に読書ボランティアに入ってもらうことができた。図書貸出し冊数は昨年度とあまり変わらなかった。	A b	○コミュニティスクールの力を借りて地域の特色ある人・もの・ことを紹介し、総合学習とつなげていく。低学年への読み聞かせボランティアを継続し、読書の楽しさを味わえるようにする。
○みんながわかりやすい授業を目指し「東春近小みんなのUD」が共通のものとしてできた。授業の流れを示すことで見通しが持てるようになった。	B b	○「みんなのUD」を今後更に使いやすくわかりやすいものになるよう更新し、授業のUD化を進めていく。
○学力検査の結果分析から課題が明確になり、児童が主体的に取り組む家庭学習を取り入れ、一定の成果が見られた学年がある。協働的な学習の効果を高めるためにも、子ども達の表現力・自己表出の力を高めたい。	B b	○主体的な学び手を育てた、家庭学習のあり方について検討し、家庭にも協力を求める。ICTを使った自己表現の機会を多く取り入れ、伝え合う楽しさを体験できるようにする。
○学級で1名特別な配慮を要する児童の個別の指導計画を作成した。その子への支援が学級全体のUD化につながった。	A a	○個別の指導計画の見直しや更新をして保護者と共有し、共通認識のもと支援に当たる。
○毎月、配慮を要する児童について全職員で情報共有の時間を確保した。いじめや不登校はその都度小委員会を開き、チームで対応した。	B b	○いじめ対応マニュアル等を職員間で徹底し、いじめや不登校の未然防止に努める。不登校傾向の児童については定期的な支援会議を開く。
○安協や見守り隊の皆さんのおかげで、登下校時の交通事故はゼロだった。しかし、危険な歩き方や登下校時の危険行為について地域の方から連絡が入ることが何件あった。設備の老朽化は課題である。	A a	○通学路の安全マップを有効活用し、地区子ども会で危険箇所の確認を徹底する。施設設備の老朽化は、優先順位をつけて順次更新や修繕を行っている。
○どの学年も農作物の栽培を通して、食と社会について学ぶ経験ができた。5年生の作ったお米を給食に提供することができた。	B b	○借用農地が広く、子ども達だけでは有効活用が難しい。学習ボランティアを募り協力を求めたい。
○保護者アンケート「必要な情報が学校から提供されている」では86%の保護者が肯定的な回答をした。連絡システムが定着し、双方向で連絡が可能となっている。	A a	○連絡システムの更なる有効活用法を探っていく。重要なことは電話や対面で丁寧に伝えるよう心がける。学校ホームページの内容を充実させ、活用を図る。
○地域に開かれた学校、地域とともに歩む学校をめざし、更に地域との連携を図っていく必要がある。	B b	○外部講師やボランティアについては、必要に応じてCSコーディネーターに依頼したり、学校だより等で募集したりする。
○毎週月曜日に必ず研究会を位置づけ、通常学級における特別支援教育について理解を深め、実践につなげることができた。	A b	○それぞれが自己課題をもち、課題解決のための自主的な研究となるよう、チーム分けや授業公開の仕方など工夫していく。

	○職員研修の工夫と充実	○「学び続ける教師像」を求め、校内外の講師を活用しての幅広い内容の研修を実施したか。	○「児童理解」「特別支援教育」等の内容で外部講師をお招きして研修を実施した。また、毎回の職員会議で非違行為防止研修を行った。	A a	○外部研修に参加しやすい体制づくりを進める。研修についてのアンケートを行い、職員の希望に沿ったのある研修にする。非違行為防止研修は、毎月継続して実施していく。
--	-------------	--	--	--------	---